

第2章 第2次計画期間における取組

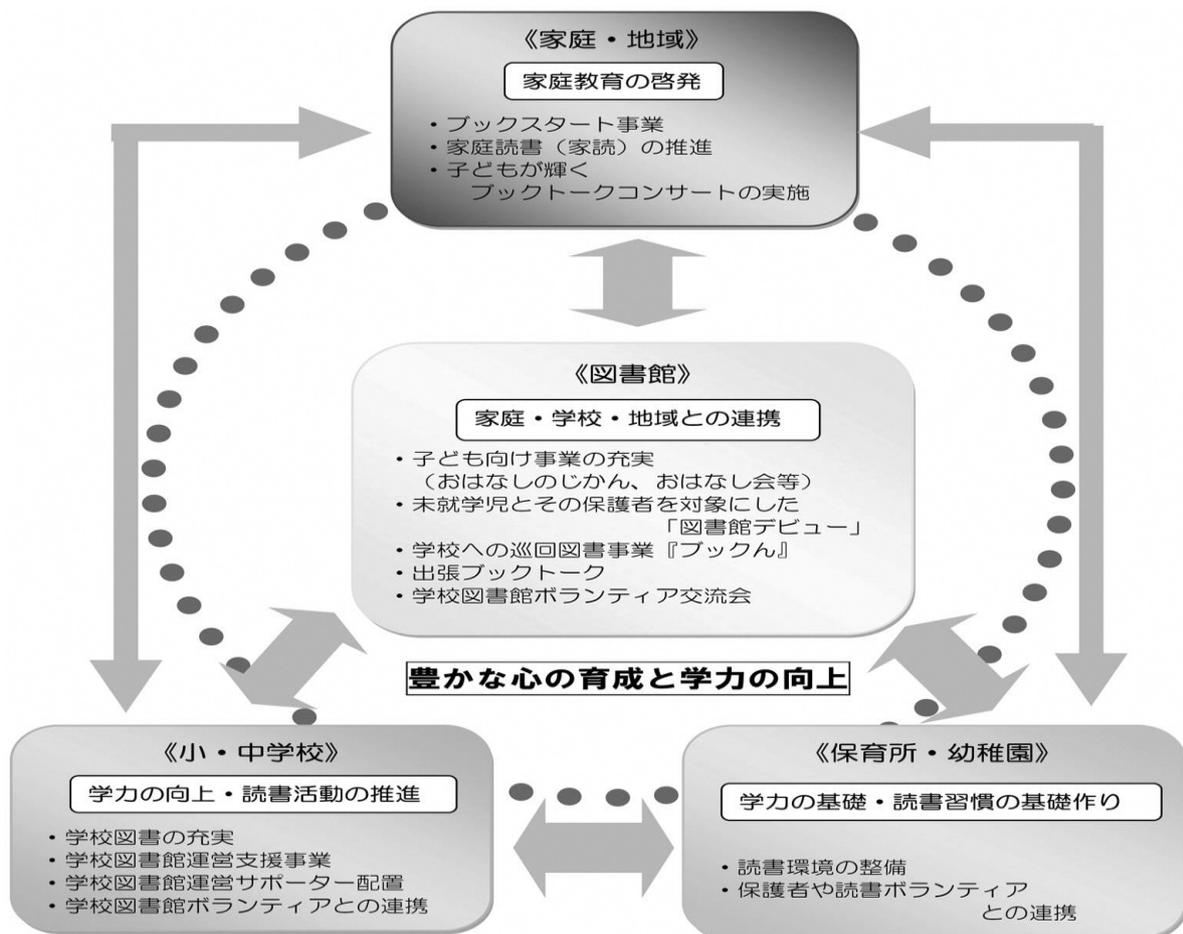
1. 第2次計画期間における基本目標

第2次計画期間においては、「楽しく読書できる環境を整え、読書が大好きな草津の子どもたちを育てよう」を基本目標に、次の3つを基本方針とし、取り組んできました。

【基本方針】

- ①本との出会いと読書に親しむ環境づくり
- ②家庭、地域、学校、図書館等の連携による読書活動の推進
- ③子どもの読書情報の提供と理解や関心を高める普及・啓発と推進

【第2次計画における『読書大好き草津の子ども』推進事業体系図】



2. 第2次計画期間における取組の成果と課題

【主な成果】

- ・小学生の「1か月に読んだ書籍の平均冊数」および小中学生の「1か月に本を1冊も読まなかった割合（不読率）」については、全国を上回る成果が見られる
- ・「全国学力・学習状況調査」の結果、「読書は好きですか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの数が、小学生、中学生ともに増加

【主な課題】

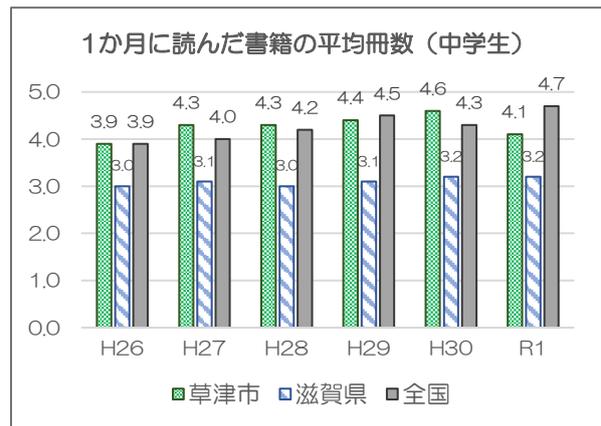
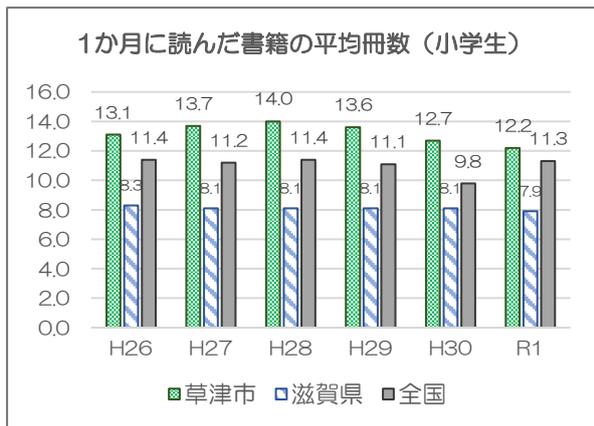
- ・「全国学力・学習状況調査」の結果、依然として「読書は好きですか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた中学生の割合が、全国平均に比べ低い

【第2次計画期間における取組の成果と課題】

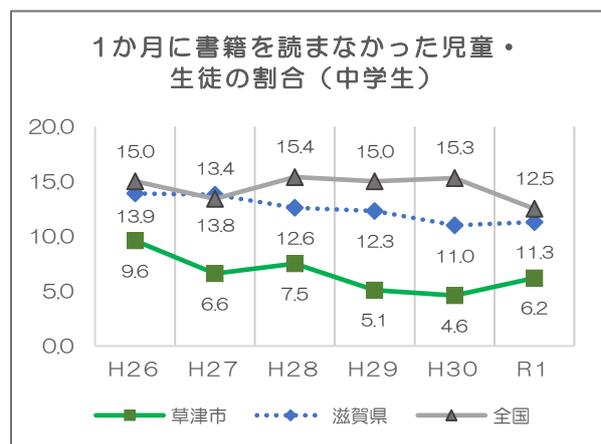
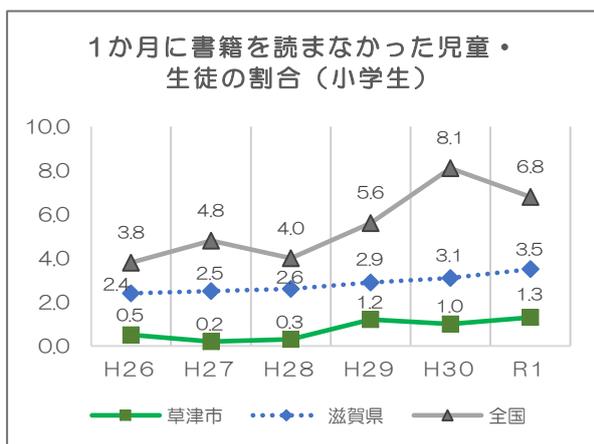
本市においては、子どもの読書に関わる活動を推進していくうえで、家庭、地域、学校、図書館等と連携し、子どもの読書環境を整備してきました。

その結果、草津市における子どもの読書活動の傾向については、「子どもの読書活動に関する調査」³の調査により、小学校4年生～6年生のうち、1か月に読んだ書籍の平均冊数については12.2冊で、全国を上回る成果が出ています。また、中学3年生のうち、1か月に読んだ書籍の平均冊数については4.1冊で、県内では高い水準を維持していますが、全国を下回りました。

3 「子どもの読書活動に関する調査」… 滋賀県が、小学校4年生～高校3年生の5月の1か月間の読書量を、毎年6月第1週に調査するもの

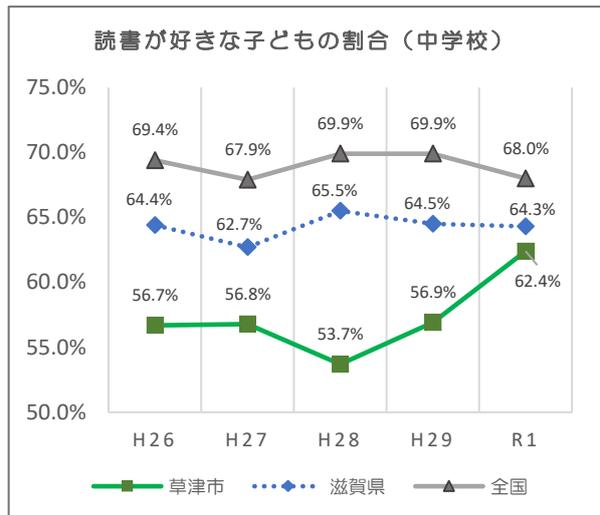
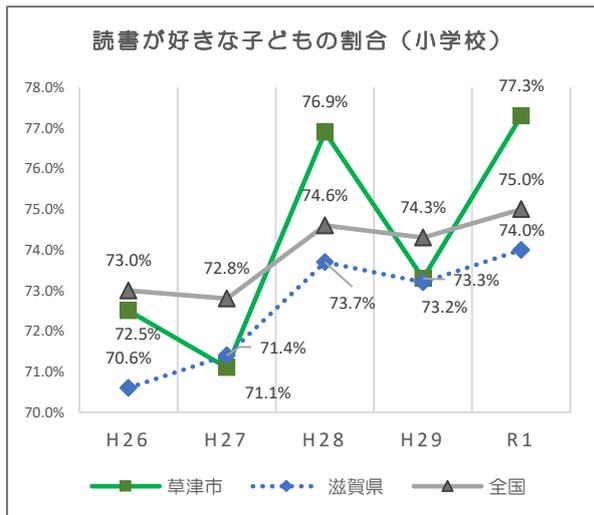


また、小学校4年生～中学校3年生のうち、1か月に本を1冊も読まなかった小学生の割合（不読率）は、1.3%、1か月に本を1冊も読まなかった中学生の割合は、6.2%となっており、いずれも全国よりも低い数値で推移しており、第2次計画における取組の成果が表れていると考えられます。

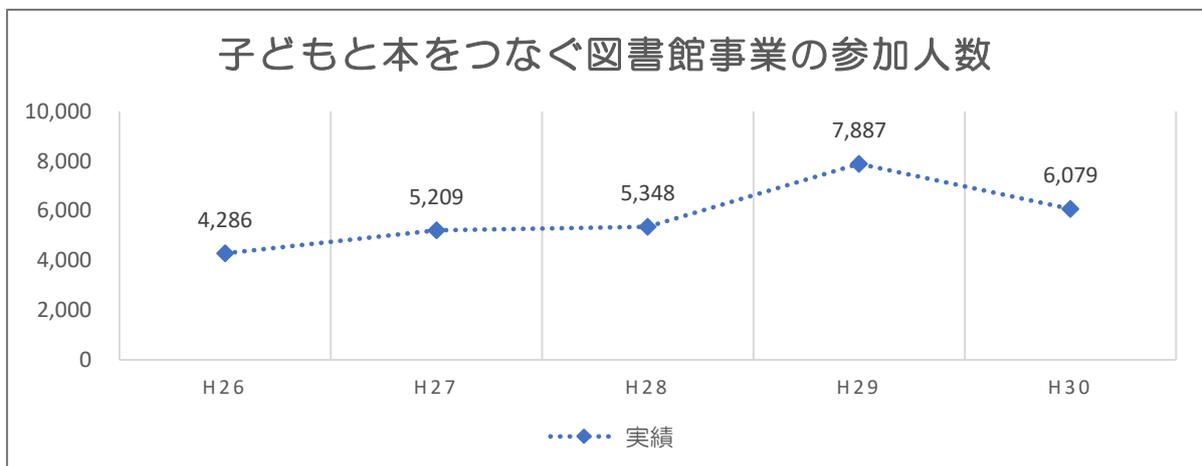


他方、計画の基本目標である「楽しく読書できる環境を整え、読書が大好きな草津の子どもたちを育てよう」という観点では、「全国学力・学習状況調査」⁴の子ども読書に関する調査の結果、「読書は好きですか」という問いに対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた小学生の割合は、平成26（2014）年度と比較すると4.8ポイント増加し、77.3%、中学生の割合は5.7ポイント増加し、62.4%となりました。このことから、第2次計画における取組の成果が表れていると考えられます。

4 「全国学力・学習状況調査」…平成19年度から文部科学省により、小学校6年生、中学校3年生を対象に、教科に関する調査（国語、算数・数学）、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施するもの



また、子どもと本をつなぐ図書館事業の参加人数も年々増加しております。



しかし、依然として「読書は好きですか」という問いに対して「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた中学生の割合は全国平均に比べ、5.6ポイント低い状況にあり、本市の子どもたちは、読書量は多いものの、読書が好きな子どもの割合は依然として低いことがわかります。

以上のことから、さらなる読書への興味や関心を引き続き持つことができるよう、取組の継続と発展が必要です。

また、国際化の進展に伴い、海外から帰国した子どもや外国籍の子ども、両親が国際結婚の子ども等、外国につながる子どもが全国的に増加しており、外国につながる子どもの読書環境を整え、読書活動を推進するように配慮することが求められています。

3. 指標からみた評価

第2次計画では、子どもの読書活動推進の推移を測る数値として8つの指標を設定し、計画の進行管理を行ってきました。

評価	
目標を達成した	a
目標を達成することは出来なかったが、直近の実績は前期計画策定時より改善した	b
目標を達成することが出来なかった	c

【子どもの読書の「量」の充実を図る指標】

草津市内の児童生徒が1か月に読んだ書籍の平均冊数は、小学生、中学生のいずれも目標値を達成することが出来ませんでした。全国平均と比較すると、依然として高い数値を維持しています。また、1か月に書籍を読まなかった児童生徒の割合（不読率）は、小学生では目標を達成することが出来ませんでした。中学生では、目標を達成し、いずれも全国平均より低く抑えることが出来ています。

指標名		第2次計画 目標値	現状 ⁵	評価
草津市内の児童生徒が 1か月に読んだ書籍の 平均冊数	小学校 (4~6年生)	13.5冊	12.2冊 (R1.6)	c
		全国平均と同様にゆるやかに減少し、目標値には届かなかったが、全国平均（11.3%）と比較して、依然として高い数値を継続している		
	中学校	4.2冊	4.1冊 (R1.6)	b
		目標値を達成することは出来なかったが、前期計画策定時（3.9冊）と比べ、0.2冊増加させることが出来た		
1か月に書籍を読まな かった児童生徒の割合 (不読率)	小学校 (4~6年生)	0.4%	1.3% (R1.6)	c
		前期計画策定時（0.5%）と比べ、0.8ポイント増加し、目標を達成することが出来なかったが、全国平均（6.8%）と比較して、低く抑えることが出来た		
	中学校	8.0%	6.2% (R1.6)	a
		前期計画策定時（9.6%）と比べ、3.4ポイント減少し、目標を達成することが出来た		

5 現状については、計画策定日現在の最新数値を採用しています。

年間貸出冊数および蔵書冊数では、市民1人が市立図書館で年に借りている図書冊数および児童図書の市立図書館での蔵書冊数は、目標を下回ったが、児童図書の市立図書館での年間貸出冊数は、目標を達成し、図書館を利用する児童が増加しました。

指標名	第2次計画 目標値	現状 ⁵	評価
市民1人が市立図書館で年に 借りている図書冊数	11.0冊	8.6冊 (H30年度)	c
	目標値を下回ったが、全国平均(5.4冊)と比較して、依然として高い数値を継続している		
児童図書の市立図書館での年間 貸出冊数 (12歳以下の子ども1人あたり)	23.1冊	23.6冊 (H30年度)	a
	年間貸出冊数が、前期計画策定時(22.1冊)と比較して、1.5冊増加し、目標値を達成することが出来た		
児童図書の市立図書館での蔵書 冊数 (12歳以下の子ども1人あたり)	7.6冊	7.1冊 (H30年度)	c
	目標値を下回ったが、当初計画策定時(6.5冊)と比較して、1.1冊増加している		

【子どもの読書の「質」の充実を図る指標】

読書が好きな子どもの割合は、小学生では目標を達成することが出来ました。中学生では、目標を達成することが出来ませんでした。平成26年度と比較すると、5.7%増加し、子どもの読書への取組の成果が表れてきていると考えられます。

子どもと本をつなぐ図書館事業の参加人数では、1,459人増加し、目標を達成することができました。

指標名		第2次計画 目標値	現状 ⁵	評価
読書が好きな子どもの 割合 ⁶	小学校 6年生	74.0%	77.3% (H31.4)	a
		読書が好きな子どもの割合が平成26年度(72.5%)と比較して、4.8ポイント増加し、目標を達成することが出来た		
	中学校 3年生	69.5%	62.4% (H31.4)	b
		読書が好きな子どもの割合が平成26年度(56.7%)と比較して、5.7ポイント増加したが、目標を達成することは出来なかった		
子どもと本をつなぐ図書館事業の 参加人数		5,000人	6,079人 (H30年度)	a
		事業の参加人数が平成26年度(4,620人)と比較して、1,459人増加し、目標値を達成することが出来た		

6 読書が好きな子どもの割合…「全国学力・学習状況調査」(全国学力学習状況調査・児童生徒質問紙【質問紙番号51「読書は好きですか」の「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」の合算】)